

地域包括ケア実習

[実習] 第3～4学年 後期～前期 必修 2単位

《担当者名》○川添 恵理子 e-kawa@hoku-iryo-u.ac.jp 竹生 礼子 増田 悠佑

【概要】

実習Ⅰ：訪問看護事業所での実習

地域で生活する療養者とその家族の特徴とニーズを理解し、生活の質の維持向上を目指した在宅看護を提供するための基礎を養う。

実習Ⅱ：医療機関の地域連携部門・入退院支援部門での実習

・外来通院や入退院における療養者とその家族を中心とした意思決定支援の在り方を学ぶ。

療養者のニーズとその特徴を理解し様々な移行における生活の質の維持向上及びチームケアに必要な継続看護マネジメントを実践する基礎を養う。

【学修目標】

実習Ⅰ

- 1) 在宅療養者とその家族の健康状態および生活状況を理解することができる。
- 2) 在宅療養者とその家族のニーズを理解し、看護方法を理解することができる。
- 3) 在宅療養者とその家族を支援する社会資源の活用と連携を理解することができる。
- 4) 在宅看護の意義とあり方、訪問看護ステーション・医療機関の訪問看護事業所の機能を理解することができる。
- 5) 相手を尊重し、専門職としての対応とマナーをふまえた行動を理解することができる。

実習Ⅱ

- 1) 対象者を生活者としてとらえることができる。
- 2) 療養者及び家族のニーズを理解し、療養者を中心とした意思決定支援について考えることができる。
- 3) 入退院支援・入退院調整の場面を通して継続看護マネジメントについて考えることができる。
- 4) 継続看護マネジメントにおける看護の役割と多機関・多職種連携及びチームケアについて考えを深めることができる。
- 5) 相手を尊重し、専門職としての対応とマナーをふまえて行動することができる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
実習Ⅰ	訪問看護事業所での実習	1. 実習準備と事業所特性の把握 1) 実習の目的・目標の明確化 2) 在宅看護の理念の確認 3) 在宅看護に関連する制度の理解 4) 実習における学び方、留意事項の理解 5) 実習先を訪問し、事業所の特性および周辺地域・付属施設の特性を把握する 2. 訪問看護事業所での実習 1) 訪問看護師と同行し、在宅看護場面を見学する ・在宅で生活する療養者・家族の理解 ・行われた看護の意味を理解する ・受け持ち1事例について、看護過程にそって記録する 2) 多機関・多職種との連携場面を見学する ・医師連絡 担当者会議 カンファレンスなど 3) 所内のカンファレンスを見学する ・チームでの活動場面の実際を見る 3. 統合 1) グループディスカッション 2) 報告会 ①事業所の特性 ②事例からの学び 3) レポート作成	川添・竹生・増田
実習Ⅱ	医療機関の地域連携部門・入退院支援部門での実習	1. 実習準備と実習医療機関・部署の特性の把握 1) 実習の目的・目標の明確化 2) 継続看護マネジメント・多職種連携の理念の確認 3) 在宅看護に関連する制度の理解	川添・竹生・増田

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
		4) 実習における学び方、留意事項の理解 5) 実習先の医療機関と地域連携部門・入退院支援部門、付属施設の特性を調べる 2. 医療機関の地域連携部門・入退院支援部門での実習 1) 地域連携部門・入退院支援部門の看護師あるいはソーシャルワーカーと同行し、支援場面を見学する ・支援を必要とする療養者・家族の理解 ・行われた看護の意味を理解する ・1事例について、行われた継続看護マネジメントについて記録する 2) 多機関・多職種との連携場面を見学する ・医師連絡 担当者会議 カンファレンスなど 3) 部署内のカンファレンスを見学する ・チームでの活動場面の実際を見る 3. 統合 1) グループディスカッション 2) 報告会 ①医療機関・部署の特性 ②事例からの学び 3) レポート作成	

【授業実施形態】

面接授業

※授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【アクティブ・ラーニング】

導入している

【評価方法】

①実習Ⅰ	実習目標達成度	35%	記録物（記録様式、レポート）	15%
②実習Ⅱ	実習目標達成度	35%	記録物（記録様式、レポート）	15%
合計	100%		実習Ⅰ・実習Ⅱの評点を合計して評価する	

【教科書】

- ①櫻井尚子他編：ナースング・グラフィカー在宅看護論①地域療養を支えるケア。メディカ出版，2019
②山田律子・井出訓編：生活機能からみた老年看護過程＋病態・生活機能関連図。医学書院，2016

【参考書】

- ①スーディ神崎和代編：在宅看護学講座。ナカニシヤ出版，2019.
②浦部晶夫・島田和幸・川合真一編：今日の治療薬 解説と便覧 2014.
③長江弘子：継続看護マネジメント。医歯薬出版，2018.

【学修の準備】

- ①在宅看護学関連の教科書、授業で教授された内容を予習し、実習で活用できる知識としておくこと（予習30分）。
②在宅看護学関連の授業にて配布した資料、個別援助記録を整理し、実習中に参考にできるようにファイリングしておく（予習30分）。
③ガイダンスにて、実習の準備内容の確認、物品（訪問袍等）の借り受けをする。
④実習Ⅰについては、事前に訪問事例を受け取り、情報の整理、病態の学習を行っておく（予習1時間）。
⑤実習Ⅰ・Ⅱで経験し学んだ内容について、実習記録にまとめ考えを深める（復習1時間）。
⑥実習目標と照らし合わせて自己の学びを確認し翌日以降の実習に備える（予習・復習1時間）。

【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

DP4： 保健・医療・福祉をはじめ、人間に関する様々な領域の人々と連携・協働できる能力を身につけている。
DP5： 多様な文化や価値観を尊重して地域社会に貢献できる能力を身につけている。

【実習期間・実習場所】

実習期間

2025年11月27日～12月12日

2026年5月・6月・7月 の期間中に実習Ⅰおよび実習Ⅱ合計2単位分の実習を行う。

実習場所

実習Ⅰ：札幌市内及び近郊の訪問看護ステーションもしくは医療機関の訪問看護事業所

実習Ⅱ：札幌市内及び近郊の医療機関の地域連携部門・入退院支援部門

【実務経験】

川添恵理子（地域看護専門看護師、保健師、退院調整看護師、介護支援専門員）、竹生礼子（訪問看護師、保健師、介護支援専門員）、増田悠佑（訪問看護師・外来看護師・病棟看護師）

【実務経験を活かした教育内容】

医療機関、訪問看護事業所、介護施設等の実務経験で得た知識・技術・援助姿勢をいかし、実践に役立てられる実習指導を行う。

【その他】

この科目は主要授業科目に設定している